マイナスからプラスへ！
復興のまちづくりに向けて

佐藤　金正（さとう　かねまさ）

川俣町長

平成23年３月11日に発生した東日本大震災、それに伴う東京電力福島第一原子力発電所における事故により、我が川俣町の生活や自然環境は甚大な被害を受けましたが、昨年は３月31日に一部避難区域に指定されていた山木屋地区の避難指示が解除され住民の皆様の帰還が始まり、また７月１日には復興拠点商業施設「とんやの郷」がオープンし、さらには一部通行が制限されていた国道114号が自由通行となるなど、復興からの発展を目指す川俣町にとって、未来へ向けた第一歩が踏み出せた年でありました。

しかし一方では、平成30年１月１日現在の山木屋地区における居住率は、29.1％にとどまっており、今後の復興に期待される状況となっています。

このような中、原子力災害の影響は避難区域のみならず全町にわたることを踏まえ、これまで取り組んできた川俣町復興計画を盛り込んだ第５次川俣町振興計画後期基本計画を策定いたしました。

本計画では、これまで以上に、復興施策の強化に加え、かねてより課題となっていた少子高齢化への対応、子育て支援の充実、町の未来を担う人づくりなどに取り組むこととしております。

○原子力災害からの復興（農業）

山木屋地区の復興と農地の再生を目的として、所有者による管理が難しい農地の保全管理、土壌改良、管理耕作等の作業を受託し営農再開に向けた取り組みを進めるため、山木屋地区で農業を営んでいた６名が、平成29年３月に「農事組合法人ヒュッテファーム」を立ち上げました。現在は、高齢化や転居などの理由で耕作できなくなった農地を賃借し、近隣の牧場を中心に販売するための飼料作物の生産に取り組んでいるところです。

今後は、生産面積の拡大を視野に、飼料倉庫な

川俣町のポリエステル媒地活用推進組合が栽培したアンスリウム

どの拠点整備や組合員の増員を目指し、将来的に山木屋地区の農業を支えていくことが期待されています。

花卉（き）栽培につきましても、平成29年５月に川俣町と包括連携協定を締結した近畿大学の協力のもと、「川俣町ポリエステル培地活用推進組合」によるアンスリウムの実証栽培が行われています。

ポリエステル培地による栽培方法は、農業従事者への負担が少なく、また、土を使用しないことから風評被害も払拭できるため、川俣町の復興事業として期待され、2020年開催の東京オリンピックのビクトリーフラワーや選手村等で採用してもらうことを目指しているところです。

○産業の活性化と雇用の確保

経済のグローバル化や構造の変化による産業空洞化、労働力不足などにより、川俣町の産業は収益構造の悪化や後継者不足など、様々な問題に直面しています。産業活力の向上は、川俣町の活性化に直接結びつく重要な課題であり、企業、研究機関と行政とが連携して取り組む必要があるため、川俣町では事業所や各種関係団体、川俣高校などと連携して、さらなる産業の活性化と人材の育成に取り組みます。

また、非正規雇用の待遇改善や長時間労働の是正など、働きやすい環境の整備に努めるとともに、国が推進するイノベーション・コースト構想などを活用した新たな産業の創出により、雇用と人材の確保に努めます。さらに、都市部との産業交流を促進し、当町の産業技術の向上を図るなど、地場産業の底上げを促進します。

○積極的な子育て支援の推進

当町では少子高齢化が進むとともに、核家族化や働き方の多様化などにより、保育サービスや子育て相談など、子育て支援に対するニーズも多様化・複雑化しています。

そのため、多様化する就労形態に合わせて延長保育や夜間・休日保育、病児・病後児保育、一時預かり、学童保育など保育サービスの充実に努めるとともに、相談事業の充実などを図る地域子育て支援拠点事業、保育経験者の力を借りたファミリー・サポート事業など、地域一体となった施策の展開に努めます。また、仕事と家庭、地域生活の両立が図れるよう、事業所や団体などに対してはワーク・ライフ・バランスに配慮した就業形態の確立を促進していきます。

積極的な子育て支援の推進

○教育への積極的な取り組み

教育分野においては、全国的に子どもの学力や規範意識の低下、いじめや不登校、学級崩壊など、様々な課題に直面しており、家庭や地域の教育力の低下なども懸念されています。地域に生活する子育て世代にとって教育は大きな問題であるとともに、急激な少子化が進む川俣町の活性化を図る上でも重要な要素となっています。

そのため、当町では、保育園、幼稚園、小・中学校との連携強化や読書活動の促進、自然体験学習や学校間の交流なども含めた集団体験活動の充実などを図り、確かな学力と豊かな心が育まれる教育環境の充実に努めます。

これらの施策について、町民、議会、行政と一体となって、共に知恵を出し合い、共に考えながら、積極的に取り組み、マイナスからプラスへの復興のまちづくりを推進するとともに、川俣町の将来像である「みんなでつくる元気いっぱい笑顔いっぱいのまちかわまた」を実現したいと考えております。